

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
毎月 1日発行
平成28年3月号

担い手対策の取組について ～就農希望者を千葉の大地につなげるために～

公益社団法人 千葉県園芸協会
千葉県青年農業者等育成センター

担い手の減少等により農業生産環境が大きく変わりつつあるなか、千葉県青年農業者等育成センターでは、関係機関と連携して、新規就農者の確保・定着を図るための事業を行っています。

農業従事者の減少が続く一方で、既存の経営体では規模拡大や法人化が進み、これに伴って増加する雇用労力の確保も、新規就農者確保の一環として、重要な課題となっています。

青年農業者等育成センターでは、就農を希望する人に向けての相談会や、雇用就農希望者に対する無料職業紹介事業を行うとともに、新規就農者の定着を願って交流会等を行っています。

以下に、本年度これまでに実施してきた担い手対策のうち就農相談の取組状況をお伝えします。

1 就農相談から見える就農希望者の状況

就農相談は、各種印刷物やホームページを媒体とした広報活動と併行して、電話やメール、窓口での対面相談を日常的に行っています。

また、就農相談会の全国版として「新・農業人フェア」が、千葉県版として毎年 11 月 23 日に行われている「就業相談会」があります。

千葉県青年農業者等育成センター



青年農業者等育成センターのホームページ画面

平成 27 年 4 月から 12 月までに、青年農業者等育成センターが関連した相談件数は 200 件を上回りました。相談者は 20 代と 30 代が最も多く 7 割を占めるなど、農業を志す人が数年前に比べて若くなっている傾向が見られました。

このうち、東京で 3 回にわたって実施された「新・農業人フェア」には計 124 名が、例年実施している「就業相談会」には 47 人が来訪しており、また、窓口を訪れた相談者は 34 名でした。しかし、各相談会に訪れた相談者は、「農業に就きたい」といった漠然とした目的で来訪している方が多く、必ずしも就農意欲が高い人ばかりではないことが窺えました。

一方、相談者の中には「栽培技術がない」、「農地がない」、「資金がない」といった状況にありながらも就農意欲が高い方も少なからず居ることから、このような人達をいかにして就農につなげられるかが就農相談のポイントとなっています。



2 農業の無料職業紹介事業

青年農業者等育成センターでは、「農業の無料職業紹介所」の許可を受け、平成 27 年 4 月より、生産者の求めに応じて雇用就農の斡旋を行っています。就農意欲が高いにも拘わらず、独立就農への諸条件を持たない人達が雇用就農することで栽培技術を習得し、雇用先の地域に馴染みながら農地の確保をめざし、やがて地域に定着してくれることが期待されます。

生産者からの求人要望と就農希望者の夢を結ぶことで、千葉県農業の担い手の確保・定着につながるよう今後も努めていきます。

千葉県青年農業者等育成センター
TEL 043-222-3008
<http://chiba-engei.or.jp/>

頑張る産地

植木伝統樹芸士シリーズ⑤ 高宮 啓明氏【東金市】の紹介

山武農業事務所 改良普及課
グループリーダー 内田 精一

高宮啓明氏は、平成 14 年に千葉県植木伝統樹芸士の認証制度が開始された初年度の認証者です。主品目の天目松は、和名で「枝垂れ赤松」と呼ばれ、枝が垂れて横に張らないのが特徴です。この天目松で幹に曲りを付け、こぶりな仕立て方を最初に開発した生産者です。

1 植木生産者としての経緯

高宮氏は、昭和 8 年に東金市に生まれ、学校卒業後、イチゴ、トマト、キュウリの施設野菜を栽培した後、植木生産に転換をしました。

昭和 40 年代の前半、房州のマキの原木を買い付けて仕立てることから始まりました。その後、貝塚伊吹、キャラ、ツゲの生産を手がけ、



現在の主力品目である松、アセビにシフトしました。

高宮氏の松の造形技術は高く、数年前までイタリア、トルコ、ウクライナ、中国に輸出を行っていました。

2 天目松を導入したきっかけ

天目松への取組は、植木の原木を探しに行った大多喜町で目にとまった天目松を買い付け、仕立てて売ったところ買値の 10 倍で売れたことから始まりました。

また、特徴である幹の曲づくりは、パイプの支柱に縛った苗が自然と重みで優美な曲線を描き、趣のある商品作りにつながったものです。更に改良を加え、今の栽培体系が出来上がりました。

栽培期間は、15 年で出荷となりますが、ごつごつとした曲りとならないよう、枝の長短を付けた配置のバランスにも注意を払います。

また、幹の皮はぎによって、幹肌の赤色がさらに商品を引き立たせます。

3 植木生産に対する信条

氏は、現在も市場出荷を主体に植木生産をされています。これまで、新しく導入する樹種は、大量生産をして、大きく取り組むことでやる気と夢につながってきたそうです。

また、自身が天目松に取り組んだのは 60 才になってからです。

若手植木生産者に対しては、何かを始めるのに年齢は関係ないので夢を持って取り組んで欲しいと語ってくれました。



育成中の天目松



ニホンナシ「幸水」幼木の生育促進技術

農林総合研究センター 果樹研究室
主任上席研究員 押田 正義

定植後 3 年間のニホンナシ幼木の生育を促進するには、ジベレリンペーストの新梢基部塗布や株元マルチが有効です。いずれか一方でも併用と同様の効果があるので資材費や作業労力を考慮していずれかの方法を選択します。

1 はじめに

ニホンナシ「幸水」は、樹齢が 30 年を超えると収量が大幅に低下するため改植が必要になります。しかし、定植した幼木の初期生育が不良になることが問題となっています。そこで、幼木の生育促進効果が期待されるジベレリンペースト（以下ジベレリン）塗布や株元へのマルチについて試験を行いました。

2 ジベレリン及び株元マルチの処理法

ジベレリンは植物ホルモンの一種で、果実肥大や熟期促進を目的に広く利用されていますが、近年は新梢伸長促進を目的に登録が拡大され普及が進んでいます。試験では、定植 1 年目は主枝候補とする新梢基部に、定植 2 年目と 3 年目は主枝先端から発生した新梢基部に、いずれも 100mg を塗布しました（写真）。塗布時期は展葉が開始して間もなくの 4 月中旬としました。

マルチは野菜栽培で広く用いられていますが、ニホンナシでも 5~6 月の地温を保持することで新根の伸長が促進され、地上部の生育も良好になると考えられています。試験では、地表面を透明のポリエチレンフィルム（厚さ 0.02mm）を用いて、定植 1 年目は樹の株元縦横 50cm、定植 2 年目は縦横 100cm、定植 3 年目は縦横 150cm に、いずれも 4 月下旬から 11 月下旬まで被覆しました。

3 幼木の生育促進効果

「幸水」の 1 年生苗木を圃場に定植し、その後 3 年間継続してジベレリンを塗布する区（ジベレリン区）、株元にポリマルチを行う区（ポリマルチ区）

及び両処理を併用する区（ジベレリン・ポリマルチ併用区）を設け、稲わらマルチのみを行う対照区と生育を比較しました。その結果、ジベレリン及び株元ポリマルチのいずれも、定植後 3 年間の幼木の生育促進に有効であることがわかりました（表）。しかし、ジベレリン・ポリマルチ併用区の生育はジベレリン区及びポリマルチ区それぞれと差はなく、両処理を併用した効果は得られませんでした。したがって、資材費や作業労力を考慮して、いずれかを選択すればよいと考えられました。

4 おわりに

幼木の生育を促進させることで樹冠の拡大が進み、改植による収量低下を最小限に抑えることができます。改植を円滑に進めるため、ジベレリンや株元ポリマルチの活用を検討してください。



写真 ジベレリンの塗布方法

表 ジベレリンの塗布及び株元ポリマルチが定植 3 年目の「幸水」幼木の生育に及ぼす影響

試験区	主幹径 (mm)	主枝長 (cm)	主枝基部 直径 (mm)	1 年生枝		
				発生本数 (本/樹)	枝長合計 (m/樹)	基部直径 (mm)
ポリ						
ジベレリン	62	283	37	58	48.7	11
マルチ	64	285	36	63	56.2	11
ジベレリン・マルチ併用	64	290	38	61	52.4	11
対照 (稲わらマルチ)	55	235	31	30	26.7	11

野菜ニュース



千葉県ねぎ協議会の取組 ～省力化・効率化による規模拡大と計画出荷の実現～

公益社団法人 千葉県園芸協会 産地振興部

県では昨年度から主要 4 品目（にんじん、ねぎ、さつまいも、トマト）で産地連携による「オール千葉」の取組を行っています。ねぎ協議会では、九十九里ねぎ連絡協議会を中心に、省力機械の実演会や高単価な 5 月どり夏ねぎ産地の育成を図ってきたので紹介します。

1 本県における「ねぎ」の概要

本県のねぎは、栽培面積 2,360ha、出荷量 58,900t、農業産出額 170 億円と全国有数の産地となっております。県内では、東葛飾地域と九十九里地域が主要な産地となっており、秋冬・春を中心に周年で栽培されています。本県の課題としては、夏ねぎの数量不足や秋冬ねぎの出荷遅れ・年明けの出荷時期の偏り、大規模化や機械化の遅れが挙げられます。

2 産地連携における対応方針

これらの課題を受け、平成 27 年 2 月 17 日に開催された品目別合同協議会で、ねぎについて「夏ねぎの出荷拡大及び年内出荷比率UP、並びに産地連携による一元販売」の取組を行うことになりました。主な対応方針は以下の 3 点です。

- ①夏ねぎ（5～7 月）を出荷拡大して長期販売で顧客確保。
- ②年内出荷比率の増加による需要対応で千葉県産の売り場確保。
- ③機械化一貫体系の導入と調製出荷施設の設置による労力軽減と面積拡大。

これらの対応方針に基づき、平成 26 年度は、若手生産者を中心に JA 岩井を視察し、生産規模拡大の啓発を行いました。また、計画的な出荷に向けて、年内の軟白部の長さ 27cm の試験販売を行いました。

3 平成 27 年度の取組内容

大規模化・機械化を推進するために、本県ではまだ導入が進んでいない省力化機械の実演会を行いました。比較的低価格で普及性が高い「トラクター牽引式のねぎ収穫機」を実演展示し、ねぎ黒腐菌核病等の難防除土壌病害に有効と思われる「接着剤式全面マルチ土壌消毒機」の実用性を検討しました。

また、九十九里ねぎ連絡協議会を中心に高単価な 5 月どり夏ねぎ産地育成の取組を始めまし

た。品質の良い一本ねぎを茨城県の夏ねぎ出荷前に市場へ供給することで、農家所得の向上と県産ねぎの更なるイメージアップを目指します。しかし、本作型を行うに当たっては下記の 2 つの課題があります。

- ①2 条トンネル栽培（10 月播種）を行う必要があるため、資材費、作業手間等がかかる。
- ②収穫時期の 5 月は、田植え作業等で非常に労力の必要な時期であり、夏ねぎの収穫適期が短いので、一戸当たりの面積拡大・数量確保が難しい。

これらの課題を解決するために、当協会では夏ねぎ栽培に挑戦する農家に対して助成を行うことにしました。3JA（JA ちばみどり、JA 山武郡市、JA 長生）や県農業事務所が連携して夏ねぎ栽培に取り組む生産者の掘り起しを行った結果、約 50 名が本取組に参加します。

4 平成 28 年度の予定

今後は、夏ねぎの有利販売に向けて以下の取組を行う予定です。

- ・出荷箱に貼る「統一デザインのステッカー」を作成
- ・販売期間、出荷規格の検討
- ・市場との情報交換による商品開発
- ・3JA での合同販売促進活動の検討

ねぎ協議会では、今後も JA、全農千葉県本部、県等と連携して県産ねぎの競争力強化に向けて取り組んでいきます。



トラクター牽引式のねぎ収穫機の実演

花植木ニュース



成田国際空港での花植木の展示について

千葉県花き振興地域協議会

生産者、流通、小売業者、伝統文化関係者、行政で構成される、千葉県花き振興地域協議会は、県産花植木の需要拡大を図るため、国内外からの来訪者が多い成田国際空港ターミナル内において、本県特産の植木を活用した日本庭園や日本の伝統文化である「生け花」などの展示を行いました。

1 背景

平成 26 年に「花きの振興に関する法律」が施行され、国産花きの生産・供給体制の強化、輸出や需要拡大の取組を推進するため「国産花きイノベーション推進事業」がスタートしました。

本協議会では、その事業を活用して、花植木の需要拡大を図るため、小さい頃から花に親しむ機会づくりとして、小学校等における花育体験や庭木の造形技術実演会など花植木文化の普及に取り組んでいます。

平成 27 年度は、新たな需要拡大をねらいとして、国内外からの来訪者が多い成田国際空港ターミナル内で、本協議会の構成団体が、本県特産の植木を活用した日本庭園や日本の伝統文化である「生け花」などを展示し、県産花植木の PR を行いました。

2 展示内容

(1) 植木を活用した日本庭園の展示

(担当：千葉県植木生産組合連合会)

本県の伝統的な造形技術により仕立てられた植木で日本庭園を紹介しました。

展示期間：1月15日(金)～1月31日(日)



(2) 生け花の展示

(担当：千葉県茶華道協会)

日本の伝統文化である「生け花」の魅力を造形物「杉玉」と「生け花」を融合させた作品として紹介しました。

展示期間：1月22日(金)～2月4日(木)



(3) 県産花きを活用したディスプレイの展示

(担当：(一社)JFTD 千葉支部)

早春を彩る県産の花々でディスプレイし、豊富な花きの魅力を PR しました。

展示期間：2月18日(木)～2月29日(月)



3 今後の取組

今回の展示は、空港内に日本文化を取り入れたもので、「日本を代表する美しい展示」と海外の方から好評でした。

千葉県花き振興地域協議会では、今後も県産花植木の魅力を発信し、需要拡大の取組を行っていく予定です。

第 65 回関東東海花の展覧会 開催結果

生産振興課 園芸振興室

第 65 回関東東海花の展覧会が、2 月 12 日～14 日の 3 日間、サンシャインシティ文化会館（東京都豊島区池袋）で開催されました。

花き品評会では、関東東海地区 1 都 11 県から花き生産者の技術の粋を集めた切り花や鉢花、観葉植物、洋らんなど 1,809 点（うち千葉県 207 点）の出品がありました。

本県の生産者 3 名が農林水産大臣賞を受賞した他、多くの方が入賞し、本県生産者の技術の高さがうかがえました。（本県の受賞者は以下のとおり。）また、本展覧会は、消費者の花に対する理解を深め、一層の花の消費拡大を図ることを目的として開催されており、品評会の出品品や当番県（群馬県）による特別展示、フラワーデザインコンテストの作品等、様々な花で会場が埋め尽くされました。



来場者で賑わう展覧会会場

第 65 回関東東海花の展覧会 花き品評会 千葉県内特別賞受賞者一覧（順不同）

特別賞名	部門名	氏名	住所
農林水産大臣賞	カーネーション	鈴木 直人	安房郡鋸南町
	一般切り花	(株)フラワーハウスオサワ	旭市
	球根切り花	太田 喜明	館山市
農林水産省生産局長賞	一般切り花	正木 悦夫	南房総市
全国農業協同組合中央会長賞	球根切り花	鈴木 通夫	鴨川市
千葉県知事賞	カーネーション	三井 清和	南房総市
農林水産省関東農政局長賞	一般切り花	津嶋 洋久	南房総市
日本花き卸売市場協会会長賞	カーネーション	正木 悦夫	南房総市
	一般切り花	間宮 達也	南房総市
	球根切り花	二見 章夫	君津市
日本花き生産協会会長賞	カーネーション	座間 秀子	鴨川市
東京花き共同卸売株式会社社長賞	カーネーション	軽込 亮	南房総市
日本フラワーデザイナー協会理事長賞	一般切り花	井関 京子	安房郡鋸南町
関東地域花き普及振興協議会会長賞	一般切り花	山田 和明	館山市
日本花普及センター会長賞	一般切り花	青木 良平	南房総市
サンシャインシティ代表取締役社長賞	一般切り花	早川 剛司	南房総市
誠文堂新光社「農耕と園芸」賞	一般切り花	宇山 定雪	南房総市
日本種苗協会会長賞	一般切り花	鈴木 良一	安房郡鋸南町
日本花き卸売市場協会東海支所長賞	一般鉢物	石井 しのぶ	安房郡鋸南町
日本花き卸売市場協会首都圏支所長賞	観葉植物	林 健一郎	旭市
	球根切り花	石田和夫	山武郡芝山町
園芸文化協会会長賞	球根切り花	柳金井園芸	南房総市
日本洋蘭農業協同組合会長賞	洋らん	鈴木 恒之	山武郡横芝光町
千葉県花き園芸組合連合会長賞	カーネーション	平野 利春	香取市

平成 27 年度は 700ha 超の見込み 農地中間管理事業

公益社団法人千葉県園芸協会 農地部

2 年目を迎えた農地中間管理事業は、関係する皆様のご協力を賜り、全県で 700ha を超える実績となりました。本年度の特徴は、全体面積のうち 8 割方が地域でまとまった形での集積であることです。13 事例の内訳を見ますと、営農組織や担い手を中心になった事例が 8 件、ほ場整備実施中の地区が 4 件、地域のリーダーを核にまとまった事例が 1 件となっています。これらのうちいくつかの地域では、今後も集積が継続して進展していくものと考えられ、また近隣への波及効果も期待されるところです。

また、地域でまとまった形ではなくても、農業生産法人や担い手に事業をよく御理解いただき、そこから個別の出し手農家にこの事業が伝わり、本事業が活用された事例も多く見られています。

しかし、本年度の目標面積 2,000ha に対する達成率は 3 割にすぎず、今後さらに集積を加速していかなければなりません。まだまだ事業の知名度が低いという現実があります。一層の周知を図ることが必要と考えています。併せて集積の機運がある地域には関係する皆様とともに集積に対する合意形成をはかり、面的な推進を重点的に行っていきたいと考えています。どうぞよろしく願います。

農地中間管理事業に関する お問い合わせ先

公益社団法人千葉県園芸協会 農地部
電話番号 043-223-3011

<http://www.chiba-engei.or.jp/mgtmech.html>